

国重要文化財

旧嶋家住宅

耐震補強・保存修理工事を実施中

立山博物館の施設の一つで、国の重要文化財である旧嶋家住宅を耐震補強するとともに、屋根全面の葺替えや建具類、腰杉皮張、土壁などの補修工事を令和六年九月から行っています。

●本工事は、文化庁の令和六年度国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金により実施しています。

【旧嶋家住宅とは?】

嶋家は、かつて富山県から岐阜県の高山市に通じる飛騨街道沿いにある、細入村片掛の街道に面して建てられていた住宅です。

18世紀に建てられたとみられ、勾配の緩い切妻造で板葺きの石置屋根が特徴的です。外観は、板屋根の軒がつき、出入口の板戸2枚に障子が設けてあるなど、街道筋にふさわしい、町屋風に見せた建て方となっています。

昭和46年(1971)3月に国の重要文化財に指定、立山博物館の前身である「立山風土記の丘」へ移築されました。これまでも大規模な補修工事が数回行われていますが、現在も往時の姿を残しています。

※工事のため、建物内部の見学はできません。

富山県[立山博物館]

〒930-1406

富山県中新川郡立山町芦峯寺 93-1

お問い合わせ：076-481-1216

